



第23号
(晩秋号)

編集：LLP ゆうりんの家
京都市伏見区深草西浦町 8 - 3 9
TEL(075)643-3239 FAX(075)641-1665
発行日：2008年11月15日
編集者：水谷 隆司

ゆうりんの家 通信

URL：ゆうりんの家 <http://yurin-noie.com/>
ビーオブエス <http://bofs.co.jp/>
メール：tsushin@yurin-noie.com

「京都 東映太秦映画村」に行きました キーワードは“寒かった”

昨年は、神戸南京街&神戸空港への秋レク。
そのときの行き先アンケートで2番目が日本初のテーマ
パーク「映画村」だったということで、1年間この企画を
ズゥッと暖め、11月9日(日)に実施しました。

今回の言葉大賞

「寒かったです。“秋レク”では
なく“冬レク”に名称変更です
ね。幹事さん！」



レクはいつも一人での行動
だったので、買い物とかしづらか
ったけど、今回はヘルパーさんに付い
てもらえて良かった。



この人たち何者？
パンツはいてないと騒いでいたが
皆さんよく観察しています。ビックリ。



今回は参加者を正面から写した写真ではなく
集合写真以外は、没になりそうなる姿や
横顔のスナップなどを多く集めてみました。
これって結構おもしろい？



全般的なみんなの気持ち

(漫才師「昭和のいるこいる」風に云えば…)

「寒かった・寒かった あぁ～ 寒かったネ
でも 良かった・良かった 本当に 良かったよかった」
「何が良かったの？」
「楽しかった・楽しかった ソウソウ 楽しかった…かった」
「全てに楽しかったことが、良かったということですネ」
「そうだ・そうだ 順番が逆だけど そうだ ソウ・ソウ…」



ちょっと真面目に

「行くときは雨もぱらついていたが、降ら
なくて良かったネ、もう少しお土産買う時
間が欲しかったネ、でもやっぱり寒かった
ネ、配られたカイロ最高っ！！」

忍者ショーすごかったナア、
上から飛んできたり、
下から湧いてきたり…
20年くらい前に行ったけど
以前とは随分変わったナア



今回 ご寄稿いただきました「レスピラール花の駅」の吉本様は、第20号(本年5月5日発行)をご担当くださった、設計事務所所長であり、当施設代表の吉本武市様の奥様でもあります。実際この施設は、2001年にお二人の熱い思いが結実したものと、以前聞いたことがあります。でも当時は大変で、「動けば動くほど、赤字が増えるんです」とご主人が頭を抱えていた光景が蘇ってきます。これを不屈の精神で支えてこられたのが、看護師であり・ケアマネや他の資格も多数有する、医療・福祉のスペシャリストでもある吉本弥よひ様でした。私も開設当時、内部を拝見させていただきましたが、ご主人設計の壁面には木の香漂う本物の木材が貼られ、広いスペースだなあと感心した思い出があります。今春にも所要で昼間お伺いしたら、あの広がったメインホールは日中の通所の方たちで、溢れるほどでした。「経営は苦しいものの、昔よりはホンの少しましになりました」と、明るく笑う弥よひ様が印象的でした。(塩谷)

感動の共有

レスピラール花の駅 施設長 吉本 弥よひ

花の駅は、建てられてからもう7年も経ちましたが
今も、木の香りがして、暖かく人を迎えます。
7年経った今は、18名の方がそれぞれの曜日に通所されています。
なんて穏やかに過ごされていることか。
ご自分では移動できない、言葉も話せない、不安な想いですくんでしまいそう。
でも楽しいことや嬉しいことをみんなで共有できることでそんな不安は吹っ飛びます。
明るい笑い声がいつも響いています。
でもその陰で、重い障がいのある方を支え続けて来られているのはご家族です。
24時間365日何年も、暖かく優しく。
そのご苦勞を思うとき、わたしたちの出来ることはほんの少しです。
ほんの少しですが、御苦勞を共に担って行きたいのです。



レスピラール花の駅 正面

あるお母さんの言葉を紹介します。



メインホール

「私が、娘をここに通所させているのは、娘がたとえ知的に障害が重くて、表現することが困難でも、多くの利用者さんやスタッフの方に混じって、にぎやかな中に、身をおき、感動を共有できることを願っているからです。もう一つの大きな理由は、わたしが癒されることです。休むことの出来ない介護で疲れて、叩いてしまわない為です。安心して預けられている時間は、私が今まで出来ていなかった趣味の写真撮影や市内観光・ボランティア活動などに生かすことが出来ています。でも不安はあります。親はだんだん歳を取ります。介護できなくなったらどうしよう…その時は一緒に…」

この言葉の重みは、花の駅だけでは受け止めることが出来ません。社会全体で考えてほしいと願いながら、今日も、送迎車の到着を待っています。

レスピラール“花の駅”のホームページの冒頭には

レスピラールはポルトガル語で「安息の時」を意味します。例え障害を持っていても、病気と闘っているときでも心豊かに過ごせる場が地域の中に無数にあるといいなあ、との想いから2001年にNPO法人を設立して発足しました。

設立当初から1年半、レスパイトサービスを行ってきましたが、平成15年4月から支援費制度指定身体障害者デイサービスとなり、そして平成18年4月より障害者自立支援法に基づく生活介護事業となりました。

花の駅では、利用される方一人ひとりに合わせて楽しく快適な時間が過ごせるよう工夫をしています。

吉本様のご寄稿はまさにこれを意味しているのですね。

この分野で云う“レスパイトサービス”とは

障害のある人の日常的なケアから家族を一時的に解放する、障害児一時預かり事業、すなわち在宅福祉の向上を目的とした事業のことで、当然のことながら、レスパイト事業の推進力となるのは“人”ですよね。



(T.S) 和室

(あの...フグが...)

皆さんこんにちは、今回は皆さんの生活で欠かせない、食に関して僕が体験した事を書こうと思います。昨年からずっと(本当は昔からなんでしょうけど)食品に関して色々な問題がクローズアップされています。産地表示・日付の改ざんや薬物混入、どこどこのお店の食べ物の使いまわし等、あってはならない事がこれからもまた出て来るんでしょうね。まあ僕の場合はこういうのとちょっと違うんですけども、先月のある日に知り合いと家の近くの割烹料理屋さんに行った時の話です。その日は知り合いと晩御飯を食べに行く約束をしてました。相手が、「今日はご馳走するで、どこに行く?」という事で、僕は「マジで?ラッキー!ちょっと久々に行きたい店があんねん。」と相手のお言葉に甘えさせて頂きました。そのお店は僕が社会人になって間もない頃に、当時僕は趣味でサッカーをしていて、その時の先輩方から「お前はまだ口々に給料貰えへんからこういうの食べれへんやろ。いっぱい食え」と何回か連れて行って貰ってた所なんです。あの時は先輩方が豪快で、お寿司でもトロやら何やら高いものばかり出てきて、鍋料理は鍋料理でまた凄いもん頼むし、ホンマ美味しい(オイシイ)思いをさせて頂きました。今僕が年下の人にそういうことをしろと言われても絶対に出来なはずですけど、まあそういう事があった所に今回(多分10年ぶり位)行く事になりました。正直言うと、全然行ってなかったのでも今その店やっているのかどうかを内心心配してたんですけども、ちゃんと健在してましたね。いざお店に入って、少しずつ思い出してきたんですが、この店には大きな生け簀と水槽があって、新鮮な魚が食べられる事がウリでした。その生け簀の廻りをカウンター席が配置されていて、泳いでいる魚達を見ながら食事を楽しむようになっていました。最初僕たちはカウンターに座ろうかと思っていたんですが、家族連れで来ているであろう子供達がカウンター上の椅子の上を走り回って遊んでいて、店のマネージャーらしき人が顔を引きつけて(かなり怒ってました)子供達への対応に追われていたので、通路を挟んだ座敷で食べる事にしました。知り合いに、「今日は何でも注文してや」と言われメニューに目をやると、丁度この時期に、獲れたてのイカ(種類は忘れちゃった)の秋のフェアをやっている、店員さんが来た時に「本来海でイカを獲れたてで食べられるのは漁師さんだけですが、ウチの店では生け簀ではありますが出来るだけ多くのお客様に食べて頂こうと思っています。フグも生きがいいのが入ってますよ。」と言われたんですが、値段見てビックリしました。イカが100グラム¥2,000もするんですよ、フグの値段(てっさ、てっちり)も大概ですけど、何よりイカの印象が強くて「また決まったら呼びますわ」と、店員さんが去ってから2人で顔を見合わせ「ありえへんな。イカはええやろ。フグ?イマイチ今日は違うなあ。」...結局お互いに単品の物を何点か注文して食べる事にしました。その時僕は確か、カニ釜飯・刺身盛り合わせ・アボガドの天ぷら(これが一番美味しかった)・汁物 etc...、品数はそんなに頼んではいなかったのですが、そこそこお腹がいっぱいになる量でした。残念だったのは、車で来ていたのでお酒が飲めなかった事ですかね。まあでもお店の雰囲気は良く、知り合いとつもる話をあーだこーだと語り合いながらゆっくりとした時間を過ごす事が出来ました。時間も頃合いとなりお店を出ようとして、知り合いが「先にレジに行って会計済ましとくしゆっくり来たらええで。」と、知り合いの後に僕が靴をはいて立上がった時にふと生け簀の方を見たんですよ。そしたら、生け簀の中にいるフグ3匹のうち2匹が横たわって浮かんでるんです。

僕は「あれ?何これ?浮いてんのか?まさか死んで...多分ちゃうやろと思うんやけど。」と心の中でつぶやいていました。フグってゆっくり浮かんでる様に泳ぐじゃないですか、だから横に向いて浮きながら遊泳するような習性でもあるんやろとその時思ったんです。でも何か気になって知り合いを呼び止め、「ちょっとあれ見て、フグがあんなんなってるんやけど。」知り合いは「ホンマや。死んでるんちゃうか。」と、済ました顔でさらっと言ってのけました。いやいや、あかんやろ死んでたら、それで少しの間僕が生け簀を眺めてる間に、店員さんが厨房から出て来て生け簀の前を歩き来してるんですが無反応なんです。「聞こうかなあ。でも店員さん忙しそうやしなあ。」その時に知り合いが、「もう行くで。」とレジで会計しようとしてました。付いて行くとレジにはさっき子供達を注意していたマネージャーの様な人が居たので、ちょっと聞いてみようと思い、「すません、フグって横向くんですか?」そしたらそのマネージャーっぽい人が、あなたも見たんですよと言わんばかりに、「あれですか。冬場はめったに無いんですがねえ、たまに弱ってきている時があるかも知れないですかねえ、まあその時に死んでるんじゃないかと思われたりされるかも知れませんがねえ、我々もそういった時にフグを棒で突付いたりするとね、スイスイスイと泳ぎ始めたりするんですよ。ちょっとわかりにくい部分がありますねえ。ま、冬場はめったに無いんですけども。」えっ、習性ちがうんや。ていうかその説明何やねん。これその時のマネージャーもどきが言ったことそのまま書いてます。僕は「あ...、そうですか。どうも。」としか返事してませんが、習性じゃなかったらあのフグそのままにしてたらお店の見た目として絶対アカンと思うんですけども、また棒で突付くてそんなん...。魚が弱るのは有り得ることですけど、せめて網ですくって確認するって言って欲しかったですよ。それとねえ、2回冬場はどうのこの言うてますけどねえ、僕ら行ったの10月の初旬ですよ。冬場の説明されても困りますわ、今この状況についてどうなん?という感じでした。もうええわと思って店を出てから考えたんですけど、あの後他のお客さんがフグを注文してはったら災難ですね。3分の2がハズレフグですから、逆口シアンルーレットです。でもこの際全部あかんかも知れませんが、それにしても嫌な物見て帰ってきてるんで僕らが食べた物はどうなんやろとは思いましたが、特に体の異変も無く、今日も元気に頑張っています。

一応、その後インターネットでフグのことを検索してみたんですけど、僕が知る限りですが、フグが横向いて泳ぐという記述は書いてませんでした。もし知っている方はまた教えてください。ではまた



9月21日から1週間カナダ・トロントへ行きました。私の視点で旅行記を綴りたいと思います。

今回の旅行は、養護学校の先輩や昨年スイスにも一緒に行った知人・昔お世話になった看護師さんや中学の英語の先生など総勢8名（障害者4名・うち車椅子は私を含め3名）のグループ。大手旅行会社のツアーには乗らず、カナダ旅行専門の旅行会社に手配をお願いしました。何故なら大手ツアーは健常者向け主体のプランばかり。朝から夜までビッシリとスケジュールが詰まっています。身体的にかなりハードです。その点、今回お世話になった旅行会社は、行き先やスケジュールを自由に組み立てられ「ゆっくりのんびりトロントを満喫したい」との私たちの要望からフリー時間を多めに組み込んでもらいました。（障害者の旅行の手配は初めてとのことで、身体のことなどを説明するのが大変でしたが...）また、その一方で手配できることは私たちで行い、旅費をかなり抑えることもできました。

いつもながら出発日は雨。それが影響して...

出発の日は朝から小雨が降る天気。そう言えばスイスの時も雨だったなあ...。この雨が後々影響を及ぼすとはこの時は思ってもいませんでした...。京都駅に集合した私たちは「はるか」に乗って関空へ向かいました。関空に着くと雨は一層激しさを増し雷鳴まで轟くも“そんなの関係ねえ（もう古い？）”と、これから向かうカナダへ期待を膨らませ出発ロビーにて搭乗手続きを行いました。ここで知らされたのが、飛行機の到着が遅れ出発も30分遅れること。そして、この雨では搭乗口から荷物室へ運ぶ際に車椅子が濡れてしまうので、飛行機の搭乗口までは空港の車椅子を使用してほしいとのことでした。しかし、私はサイズの合わない車椅子では姿勢が保ちにくく出発まで座るのは辛いので、濡れても構わないからと交渉し、搭乗口までは自分の車椅子を使用できることになりました。



車椅子はまだかな～

スイスよりも遠かったカナダ...トラブルもありました...

スイスは乗り継ぎ時間も含め約17時間の旅。今回の訪問地カナダ・トロントへは、まずバンクーバーまで約10時間のフライト。ここでトロント行きの飛行機に乗換えるんですが、ゆとりを持って3時間後に出発する飛行機を予約していました。でも、ゆとりを持ったことが功を奏するとはねえ。と言うのも、次に乗る飛行機まで空港の車椅子で過ごすのは辛いので、バンクーバーでも各自の車椅子を搭乗口まで持ってきてと予め依頼していました。しかし搭乗口で待ちかまえていたのは空港の車椅子。日本語が話せるスタッフに聞くと、車椅子は次の飛行機に積み込むため移動したとのこと。ええ～日本ではキチッと対応してくれるのに...でも、ここはカナダ。海外ではこのように連絡が上手くいかないことはよくあること。ロビーで待っても車椅子は一向に届かず、結局、空港の車椅子に乗ることに（これが乗り心地が悪く辛かった）。入国手続きなどをしているとようやく車椅子が到着。ふう～やれやれとトイレやら荷物を受け取ったりしていると、もう次の飛行機の時間。結局ゆっくりする間もないまま飛行機に乗り、約5時間後ようやくトロントに到着しました。しかし、トロントでもトラブル発生！今度は、バンクーバーで車椅子と共に預けた座席に引くクッションがない！いったいどこに？？あっ！紙面のスペースもない！この続きは次号で...カナダのバリアフリー状況などとともにご紹介します！！

いまのところ毎日更新中！私のブログも是非アクセスしてください！【Mizutaniの雑記帳】<http://tk4m.blog44.fc2.com/>

ちょこっとバリアフリー情報

～京阪電車中之島線で「水の上の新都心へ」行こう！～

京阪電車の新路線・中之島線が開業しました。でも、中之島線の沿線には何があるの？私が行きたいところなら何力所があるよ。じゃあ紹介してよ！了解！新しい車両のデザインもチェックしてね！



淀屋橋に行く特急はこの車両



従来の急行・準急などの車両



中之島線に乗入れる快速急行車両

大阪市立博物館

「宇宙とエネルギー」がテーマの日本で最初に出来た科学館。そして、日本で初めて導入したプラネタリウムがオススメとか、世界5位、直径26.5mのドームで、デジタル映像を組み合わせた天体を楽しめるんですって、中野島駅または渡辺橋駅下車徒歩5分。



モンシュシュ堂島本店

「堂島ロール」というロールケーキで有名なケーキ屋さん。テレビや雑誌で多数紹介されていて「お口の中が？%&や～」と某グルメライターが絶賛しそうな美味しさだとか、渡辺橋駅下車徒歩1分。中之島線開業でアクセスしやすくなりました！どなたか行かれたら私の分も購入してきてくださいね！



各種ご協賛賜り

ありがとうございます

賛助会費

・千幸様

ゆうりんの家の運営は、多くの方々のご支援ご協力により成り立っています。

編集後記

・秋レクは寒いながらも皆さんに楽しんでもらえて良かった。良かった。でも、年々行き先が限られてきて、来年はどこへ行きますか？オススメの場所などあれば、ぜひ教えてくださいネ。
・今回の編集時間は過去最短。皆様のご協力で遅れなく発行できました。ホッとした・ホッとした。
・今年も1ヶ月半、過ぎゆく年を思うと寂しい寂しい、「昭和のいるこいる」風にまとめてみました。(T.M)

・レスパイト事業の大変さは、携わった者にしか解らないだろう。吉本様の原稿を読みながら、当時聞いていたことがちょっとだけ蘇った。私たちの分野とはまた違った難しさがあるのですネ。
・今年も最後の通信。隔月毎の発行も担当者には結構負担がかかる。この一年は水に流して、来年も気分新たに頑張るって... 素晴らしいフォロー？
・吉本様、編集長も今年はお疲れ様でした。(T.S)